

厚生労働科学研究費補助金
新型インフルエンザ等新興・再興感染症研究事業

新興・再興感染症研究事業の総合的推進に関する研究
平成25年度 総括・分担研究報告書

研究代表者 森光 敬子

平成26(2014)年 3月

平成25年度

新興・再興感染症研究事業の総合的推進に関する研究

研究組織

研究代表者

森光 敬子 国立感染症研究所 企画調整主幹

研究分担者

竹田 誠 国立感染症研究所 ウイルス第3部長

宮川 昭二 国立感染症研究所 国際協力室長

研究協力者(PO)

内山竹彦 元東京女子医科大学大学院微生物学免疫学分野教授

神田忠仁 (独)理化学研究所新興・再興感染症研究ネットワーク推進センター
業務展開チーム チームリーダー

森 亨 桔核予防会結核研究所 名誉所長

山口 一成 前国立感染症研究所血液・安全性研究部長

(所属・役職は、研究班参加時のもの。)

研究分担者、研究協力者は、五十音順・敬称略)

目 次

・総括研究報告

新興・再興感染症研究事業の総合的推進に関する研究……………1

森光 敬子 国立感染症研究所 企画調整主幹

【資料】

1. 平成25年度新規採択課題(1年目研究課題)
2. 平成25年度継続課題(2年目研究課題)
3. 平成25年度終了課題(3年目研究課題)

インフルエンザ等新興

4. ・再興感染症研究事業 PO 意見一覧表
5. 感染症に関する国際情報収集(研究協力者 大西 真)
6. 平成26年度厚生労働科学研究公募要項の概要等(抜粋)
7. 研究評価支援システムについて
8. プログラムオフィサーの活動を支援するためのシステムの開発について

・分担研究報告

新興・再興感染症研究事業の企画及び評価に関する研究
(分担報告)……………

竹田 誠 国立感染症研究所ウイルス第三部長

新興・再興感染症研究の企画及び評価に関する研究
(分担報告)……………

宮川 昭二 国立感染症研究所 国際協力室長

厚生労働科学研究費補助金(新型インフルエンザ等新興・再興感染症研究事業)
総括研究報告書

平成25年度 新興・再興感染症研究事業の総合的推進に関する研究

研究代表者 森光 敬子 国立感染症研究所 企画調整主幹

研究要旨

厚生労働科学研究費補助金新型インフルエンザ等新興・再興感染症研究事業を総合的に適切かつ円滑で効果的に実施することは、厚生労働省の感染症対策の総合的推進において必須である。本研究は、感染症研究等の専門家による同事業で実施する研究課題についての研究の企画と評価を行うとともに、情報提供や調整を行う。感染症研究の企画・評価に必要な情報収集・調査を実施し、円滑かつ適切な研究評価を行うための研究情報の共有方法について研究し、新型インフルエンザ等新興・再興感染症研究の総合的推進に資するため本研究を実施した。

研究分担者

竹田 誠 (国立感染症研究所)
宮川 昭二(国立感染症研究所)

厚生労働省においては厚生労働科学研究費補助金・新型インフルエンザ等新興・再興感染症研究事業を中心として行政ニーズに直結した新興・再興感染症研究を推進しており、この研究事業を適切かつ効果的に実施することは感染症対策を行う上で不可欠であり、研究課題の設定、研究者の選考、研究費の配分、研究成果の評価と研究を実施する研究者への支援を適切に行うことが求められている。

A. 研究目的

新興・再興感染症に対する迅速かつ適切な対応は、国民の健康を守る上で重要な施策の一つである。しかし、その対象となる感染症は多岐にわたっており、希少な感染症や今後の発生も想定される新たな感染症もある。このため、今後とも適宜適切な対応を行っていくためには、日頃から対応の基礎となる最新の知見を幅広く集積することが重要であり、その研究体制を確保し、対応の決定に科学的根拠を提供するための研究の推進を図っておくことが必要である。

本研究課題では、新興・再興感染症研究に関する情報の収集、新型インフルエンザ等新興・再興感染症研究事業の企画・評価の支援及びこれらを通じて評価者、研究者等への支援方法等についての検討を行い、その成果を厚生労働省(具体的には、健康局結核感染症

課)へ提供することにより、我が国における新興・再興感染症対策の適切な実施に資する研究の推進に寄与することを目的としている。

B. 研究方法

1. 新型インフルエンザ等新興・再興感染症研究事業の企画・評価等の支援

平成25年度に新型インフルエンザ等新興・再興感染症研究事業により実施された公募研究課題(一般公募型及び若手育成型)に関して、厚生労働本省が行う研究の企画・評価等の支援として、以下1)～3)を行った。

- 1) 感染症研究の専門家による評価組織(以下「評価委員会」という。)との連絡、情報共有等の実施
- 2) 研究協力者(プログラムオフィサー)等による研究班会議への出席及び研究の進捗状況の把握、ピアレビューの実施と評価委員、厚生労働省との情報共有
- 3) 新型インフルエンザ等新興・再興感染症研究事業において実施されている研究課題を対象とした研究発表会の実施
- 4) 研究協力者(プログラムオフィサー)の活動を支援するための Web システム案を検討し、試作品を作成

2. 新興・再興感染症研究に関する情報収集

国内外の会議への参加、文献収集

等による新興・再興感染症研究の企画・評価及び研究の実施に資する関連情報の収集と関係者との情報共有を行った。

3. 評価支援システムの開発

中間・事後評価委員会委員が、成果発表会、中間・事後評価委員会前に予備評価を行うシステムを開発した。

(倫理面への配慮)

本研究課題においては、患者等の診療情報や試料、実験動物を用いることはなく、疫学研究に関する指針、臨床研究に関する指針等に関して特に配慮すべき内容は含まないが、研究者の個人情報や研究課題内容に関する情報等を収集することから、その取扱いについては研究者等に不利益を与えないように十分に配慮する。

C. 研究結果

1. 新型インフルエンザ等新興・再興感染症研究事業の企画・評価等の支援

(1) 平成25年度実施公募課題(1)
(中間・事後評価)

1 平成24年度新型インフルエンザ等 新興・再興感染症研究事業の公募 研究課題

1年目研究課題	25課題	【資料 1】
2年目研究課題	19課題	【資料 2】
3年目研究課題	23課題	【資料 3】

1) 研究の進捗状況の把握及びピアレビュー

平成25年度に新型インフルエンザ

等新興・再興感染症研究事業において研究を行う公募研究課題の研究代表者に対し、研究班会議開催についての情報提供を依頼し、本研究課題研究代表者及び4名のプログラムオフィサーが分担して出席可能な研究班会議に出席した(2)。

研究班会議に出席した研究課題は、平成25年度に実施された一般公募課題研究56課題のうち25課題である。なお、会議連絡があった研究班は、35課題であった。

2 研究班会議出席状況等 【資料 4】

研究班会議の状況についてはレポートを作成の上、研究評価の参考資料として評価委員、厚生労働省との情報共有を行った。レポートは、中間・事後評価を実施する時期の1ヶ月前までに情報共有するとともに、その後、評価委員会までに開催された研究班会議についても適宜情報共有を行っている。

2) 研究成果の取りまとめ

全公募研究課題の研究代表者に対して成果概要の作成を依頼し、その取りまとめを行った。

この成果概要は、評価委員による評価資料とするとともに、各研究課題の研究代表者の了承を得た上で各研究課題の研究代表者の了承を得た上で「研究成果の概要」として Web 上に公開する予定である。

3) 研究発表会の実施

2年目研究課題及び3年目研究課題を対象に、平成25年1月28日に研究発表会を実施した。

研究発表会は、評価委員によるヒアリング等の場とするとともに、他研究課題の成果を共有する機会として新型インフルエンザ等新興・再興感染症研究事業の全研究課題の研究代表者及び研究分担者にも参加を案内した。また、成果発表会での発表内容について関係者との情報共有を推進するため、発表者に了承を得て音声記録を行い、2)の研究成果資料とともに web 上で関係者における共有を行う予定。

(2) 平成26年度 新規申請課題

(事前評価)

平成26年度研究課題として申請のあった研究課題について、採択の妥当性、研究規模等に関する評価委員による評価を適切かつ円滑に実施することを支援するため、申請課題の事前評価に関する資料の作成とヒアリング等の実施を支援し、その内容を厚生労働省へ提供した。

なお、ヒアリングについては、評価委員の事前の書面での評価を踏まえて、平成26年3月24日に実施する予定。

2. 新興・再興感染症研究に関する情報収集

厚生労働省の新型インフルエンザ

専門家会議、新型インフルエンザワクチンに関する意見交換会、厚生科学審議会感染症分科会予防接種部会等の傍聴、第10回日本台湾感染症シンポジウム(平成25年9月12日・13日、於:東京)など、新興・再興感染症研究の専門家、新型インフルエンザ等新興・再興感染症研究事業において研究を実施する研究者等との意見交換を通じて国内における関連研究に関する情報収集を行った(分担:宮川昭二)。

また、新興・再興感染症研究の中でも特に重要な課題である麻疹・風疹に関して、世界の状況調査・情報収集ならびにわが国の状況報告を目的に活動を行った。国内の麻疹の流行状況については、わが国の地方衛生研究所と連携して、患者からの臨床検体の収集ならびに解析を強化し、ウイルス学的検索を実施した。その結果、2011年以降わが国で流行している麻疹ウイルスのほとんどが海外からの流行株であることが明らかになった。これにより、ほぼ根絶状態にあり、これを維持していく必要性が示された。また、風疹については、2012年から2013年にかけて、我が国では大規模な再流行がみられ、現在のところ30症例を超える先天性風疹症候群の発生がみられており、対策が急務となっている。

(分担:竹田誠)。

アジアとの共同研究等の状況を把握するとともに、アジア各国における感染症に関する検査体制や研究体制の調査を行った。これにより、食品を介したわが国への病原体の流入、在留邦人における感染症対策、これらの地域への海外渡航者の感染症対策に関して統合的なネットワークが必要であろうと考えられた。また、各国がもつそれぞれの公衆衛生行政の特殊性、社会インフラ、経済的背景を理解した体系的なリスクアセスメントが重要である。そのためにも、人的ネットワークの構築と維持をはかり情報の入手先の多様性を保つことが必要である。その結果、国内組織による研究の推進はもとより、アジアを中心とした国際的な共同研究の推進及び連携体制の構築の観点からも新型インフルエンザ等新興再興感染症研究事業を活用することの必要性、研究の企画とその課題設定等についての検討を行うことの重要性を認識した。(【資料5】)(研究協力者:大西真)

これらの新興・再興感染症研究に関して収集した情報は、厚生労働省における平成25年度の公募研究課題の立案・公募要項()の作成の参考としても活用されることを想定し、適宜、厚生労働省と情報共有を行った。

3. 研究の企画・評価等の支援方法の検討

(1) 評価支援システムの開発

中間・事後評価委員会委員が、成果発表会、中間・事後評価委員会前に予備評価を書面により行っていたが、この業務を効率化するため、WEBを用いて評価を行うシステムを平成24年度に開発して試行していたが、評価委員等からの意見を聞いて改良を行った。(【資料7】)

(2) プログラムオフィサーの活動を支援するためのシステムの開発

プログラムオフィサーの適切な助言等による研究班への支援については、評価委員会において高く評価されたところであるが、プログラムオフィサー間での情報共有があれば、さらに適切な助言・支援が可能であるという指摘を受け、プログラムオフィサーがWeb上において、他のプログラムオフィサーが行った助言・支援に関する報告書を閲覧出来るシステムの試作品を開発した。これにより、研究班への助言・支援がさらに適切かつ質の高いものとなると考えられる。

また、このシステムを用いることにより、プログラムオフィサーの出席調整も容易になるため、連絡のあった班会議への出席率が上昇するものと考えられる。今後、各研究班からの班会議の連絡が速やかに行われるよう厚生労働省担当課(結核感染症課)との連携をさらに充実

して行きたい。
(【資料8】)

D. 考察

新型インフルエンザ等新興・再興感染症研究事業の対象となる感染症は、新型インフルエンザを代表とする発生前から事前対応を求められている感染症、ウイルス性出血熱やSARSのように重篤な輸入感染症として認知されている新興感染症、麻疹や結核、インフルエンザのように社会的な問題として認知されている感染症、多剤耐性菌や成人の百日咳等しばしば報道もなされて認知が高まっている感染症、さらには一般国民にはあまり注目されていないと考えられる感染症等、非常に多岐にわたっている。また、一般的に注目されている感染症に対する研究の推進とその成果の対応への還元が重要であることは言うまでもないが、あまり注目されていないと考えられる感染症であっても、常に基盤的な研究が継続されなければ問題が発生した際の対応が困難であることは明白であり、単に注目の高低のみで研究の意義や重要性を判断することは難しい。また、昨年度末からの重症熱性血小板減少症候群(SFTS)の発生や平成25年3月末に中国で確認された鳥インフルエンザH7N9の発生・流行など、緊急の感染症対応も行う必要がある。

国際共同研究に関しては、インドネシアでは、鳥インフルエンザは非常に機微

な問題であり、かつ、外国の調査には警戒心をもっているため、鳥インフルエンザに関する調査をインドネシアで実施するのは非常に困難であることが実感された。双方のメリットを考慮した国際共同研究が求められる。

限られた予算と当該研究分野における研究者のマンパワーを最大限に活用し、これらの期待に応える効率的・効果的な研究を推進するためには、新型インフルエンザ等新興・再興感染症研究事業の企画・評価において、これまで実施されている研究の内容や成果を適切に把握するとともに、研究を取り巻く行政的なニーズ、国際的な研究の状況に基づく企画・評価等を行って効率的に研究を実施することが求められる。また、これらの企画・評価等に基づく研究を適切に実施し、確実な成果が得られるよう研究者を支援することは非常に必要と考えられる。

また、非常に多岐にわたる感染症に関する基礎から応用、自然科学的分野から社会科学的分野にいたる種々の研究課題を目的に応じて適切に評価するためには、数値的な評価指標のみでは困難であり、将来的にはピアレビューも含めた複数の視点から行われることが必要である。

E. 結論

新型インフルエンザ等新興・再興感染症研究事業の適切かつ円滑な実施を図るため、新興・再興感染症関連

研究に関する情報の収集及び当該研究事業において実施される研究の企画・評価及び研究実施の支援を行った。研究発表会の開催やピアレビューなど、評価の充実とともに、疫学的方法論に基づく研究の実施が、研究の質向上に役立つと考えられた。

F. 知的所有権の取得状況

1. 特許取得 なし
2. 実用新案登録 なし
3. その他 なし

【資料 8】

プログラムオフィサーの活動を支援するためのシステムの開発について

本研究班においては、新型インフルエンザ等新興・再興感染症研究事業等において研究を行う公募研究課題の研究代表者に対し、研究班会議開催についての情報提供を依頼し、本研究課題研究代表者(森光)及び4名のプログラムオフィサーが分担して出席可能な研究班会議に出席を行っている。

平成25年9月に今回、本研究班においてプログラムオフィサーとして活動を依頼している4名の研究者に集まって頂き、これまでのプログラムオフィサーとしての活動の概括及び活動の質を高めるための方策について検討を頂いた。

以下が検討のまとめである。

【プログラムオフィサーとしての活動の概括】

- ・これまで当該研究事業のそれぞれの研究班に対して、出来る限り適切な助言ができるよう活動をしてきた。
- ・また、評価委員会におけるコメント等を踏まえて助言も行ってきた。
- ・研究班への助言は、研究班を支援する視点から行ってきた。
- ・活動報告については、評価委員会での評価に十分に活用してもらいたい。
- ・それぞれの研究班において、プログラムオフィサーの活動に対する認識度が上がって来ている様子である。
- ・プログラムオフィサーとして班会議に出席した場合、研究の進捗状況と研究班内の連携については、必ず見る必要があるだろう。

【今後の活動の質を高める方策について】

- ・他のプログラムオフィサーの助言内容等について情報があつた方がより質の高い助言・支援が行える。
- ・研究班会議に出席する場合、評価委員会からのコメントの他、過去に班会議に出席したプログラムオフィサーがどのような報告をしているのかについて知っていれば、よりよい助言・支援ができると考える。
- ・今後、試行的に、研究班の状況について数値化した評価を検討してはどうだろうか。

このようなプログラムオフィサーの活動に関する意見を頂いて、班会議情報を共有し、プログラムオフィサー間では提出された報告書等の閲覧が可能となる Web システ

ムの開発を行った。

【開発したシステムの特徴について】

< 班会議情報の迅速な共有について >

班会議開催の連絡から開催までの短期間であったり、班会議開催時期が重なったりすることなどから、プログラムオフィサーの出席調整が難しいことが生じている。また、研究班の会議が複数回あるような場合には出来る限り同じプログラムオフィサーに出席を依頼しているが調整が出来ない場合もある。

このようなことから、班会議開催の連絡を Web を通じて行い、プログラムオフィサーの出席の調整が速やかに出来るようにした。また、研究班に関する基本的な情報や班会議資料も出来る限り掲載できるようにすることで、会議出席前に必要な情報を速やかに入手出来るよう工夫している。

< プログラムオフィサー間での報告書情報の共有について >

プログラムオフィサー間において、他のプログラムオフィサーの活動状況及び報告内容を共有することにより、研究班への助言・支援がより適切になると考えられる。

このことから、プログラムオフィサーが作成した報告書については、速やかに Web 上に掲載し、他のプログラムオフィサーが閲覧可能となるように工夫している。

< 今後のシステムの試用について >

このシステムについては、平成26年早期より試用を開始する予定である。また、昨年度同時期にシステム等に関して、プログラムオフィサーから意見をもらって改良を加える予定である。

また、将来的には、評価委員やプログラムディレクターが班会議状況やプログラムオフィサーの活動状況をリアルタイムに確認できるようなシステムとすることを検討している。

参考：開発したシステムの詳細

今回開発したシステムについて、以下のとおりその詳細を記載する。

ログイン画面

The screenshot shows a login page titled "班会議情報共有システム". It features a central form with the following elements:

- Header: 班会議情報共有システム
- Input field for ID: ID: []
- Input field for Password: パスワード: []
- Login button: ログイン
- Link: [→パスワードを忘れた方はこちら](#)
- Contact information:
 - <お問い合わせ先>
 - 国立感染症研究所企画調整主幹室
 - TEL : 03-4582-2651 (内線2103)
 - Email : kaigijyuhou@kansenken.net

プログラムオフィサーに対して、ID とパスワードを配布して、限定した者のみが入るシステムとしている。

<新規登録>

新規登録は、管理者である国立感染症研究所企画調整主幹が行う設定となっている。

班会議情報共有システム | 報告書一覧 | 班会議管理 | アカウント管理 | ログアウト | ようこそ！ 森光敬子さん

ユーザー新規登録・変更

The screenshot shows the "ユーザー新規登録" (User New Registration) page. It contains the following form fields and a button:

- 研究事業: 必須 (Dropdown menu)
- 氏名: 必須 (Text input)
- ID: 必須 (Text input)
- E-mail 1: 必須 (Text input)
- E-mail 2: (Text input)
- E-mail 3: (Text input)
- ユーザー権限: (Dropdown menu)
- 新規登録 (Submit button)

班会議開催スケジュール

プログラムオフィサーはログイン画面からすぐに班会議開催スケジュールの画面をみることができるとができる。

班会議スケジュール一覧

スケジュール絞込 全て

2014年02月

01月03日 金曜日	班会議名: 相田幸二班qqaaa 課題番号: --- 研究課題名: tekisu 開始年度 - 終了年度: H22年 - H28年	班会議主催者: 相田幸二 出席予定者: 田中宏太 dfyhj ああああ 山本覚 班会議開催日時: 2014年 01月03日 ~ 02月05日 開催場所:	<input checked="" type="checkbox"/> 出席 <input type="checkbox"/> 欠席 <input type="checkbox"/> 保留 <input type="button" value="詳細を見る"/> <input type="button" value="報告書を見る"/> <input type="button" value="報告書作成・修正"/>
02月01日 土曜日	班会議名: 佐藤一樹班 課題番号: --- 研究課題名: 21 開始年度 - 終了年度: H22年 - H28年	班会議主催者: 佐藤一樹 出席予定者: 田中宏太 班会議開催日時: 2014年 02月01日 ~ 02月01日 開催場所:	<input checked="" type="checkbox"/> 出席 <input type="checkbox"/> 欠席 <input type="checkbox"/> 保留 <input type="button" value="詳細を見る"/> <input type="button" value="報告書を見る"/> <input type="button" value="報告書作成・修正"/>

< 班会議開催の連絡 >

班会議開催の連絡が事務局に入ると Web 登録の作業を行う。登録により上記の班会議スケジュール一覧に掲載されると同時に、プログラムオフィサーに対して、メールで班会議が開催される旨自動的に連絡が入るシステムとなっている。

< 班会議出席の登録 >

班会議開催の連絡を受けて、上記の班会議スケジュール一覧を見たプログラムオフィサーの出席が可能という場合には、上記の画面上の“出席”ボックスをクリックすると出席登録される。

報告書の作成

プログラムオフィサーは、班会議に出席後に下記の画面の“報告書作成・修正”ボックスをクリックして、報告書作成画面を出して記入をする。内容確認後に“送信”ボックスをクリックすると報告書が事務局に送付される。

班会議スケジュール一覧

◀ 前月 ▶ 翌々月 ▶

スケジュール絞り込み 全て ▼

2014年02月

01月03日
金曜日

班会議名: 相田幸二班qqaaa

課題番号: - - -

研究課題名: tekisu

開始年度 - 終了年度: H22年 - H28年

班会議主催者: 相田幸二

出席予定者: 田中宏太 dfy'nj ああああ 山本寛 森光

班会議開催日時: 2014年 01月03日 ~ 02月05日

開催場所:

出席

出席

欠席

保留

詳細を見る

報告書を見る

報告書作成・修正

※報告書の作成をお願いします。

班会議報告書作成 - 相田幸二班qqaaa H2014年01月03日

■ 総合点

※計画通りに進んでいるような状況は、基準点を6と考えてください。

なし 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10

■ 研究課題が全体的にスケジュールとおりに進んでいるか？

良い どちらかというが良い どちらかというが悪い 悪い

■ 研究班内の連携が良好か？

良い どちらかというが良い どちらかというが悪い 悪い

■ 評価すべき点

■ 検討すべき事項

報告書の閲覧

プログラムオフィサーは、以下の画面の“報告書を見る”のボックスをクリックすることにより、他のプログラムオフィサーが提出した報告書を見ることができる。

02月01日 土曜日	班会議名: 佐藤一樹班	班会議主催者: 佐藤一樹				
	課題番号: - - -	出席予定者: 田中宏太				
	研究課題名: 21	班会議開催日時: 2014年 02月01日 ~ 02月01日				
	開始年度 - 終了年度: H22年 - H28年	開催場所:				
未確定	出席	欠席	保留	詳細を見る	報告書を見る	報告書作成・修正

以上

厚生労働科学研究費補助金(新興・再興感染症研究事業)
「新興・再興感染症研究事業の総合的推進に関する研究」班
分担研究報告書

研究分担者 宮川昭二 国立感染症研究所 国際協力室

研究要旨 海外、特に近隣のアジア各国との連携協力及び同地域の感染症研究機関間との関係構築、更に感染症研究に携わる専門家間の密接な協力は、我が国への新たな感染症の侵入防止、また侵入時の対応において、極めて重要である。新型インフルエンザをはじめ重症熱性血小板減少症候群(SFTS)など、アジア地域の研究機関との連携協力により病原性解析や診断法開発などで大きな成果があげられている。アジア地域各国の感染症研究機関での活動について情報収集を行い、感染研との連携協力体制の推進及び我が国の新興再興感染症対策に役立てた。

A. 研究目的

国立感染症研究所では、中国、韓国等アジア周辺国の感染症研究機関との間で、研究協力に関する覚書を締結し、新興再興感染症などの研究協力、人材育成、情報共有など我が国の感染症対策の推進に役立つよう連携協力体制の構築を進めている。

本研究の目的は、我が国の新興再興感染症対策に資するため、アジア周辺国における感染症研究機関との連携協力を推進する上で必要な情報収集を図るとともに、新興再興感染症対策に役立てるものである。

B. 研究方法

1. 情報収集等

2013年7月にロシア・ウラジオストク市を訪問し、ロシア医科学アカデミー・疫学・微生物学研究所(Research Institute of Epidemiology and Microbiology(RIEM)ほかを訪問し、ロシア・日本での感染症調査研究に関するワークショップに参加した。同研究所等極東地域におけるロシアの感染症対策及び調査研究などの活動について情報収集するとともに、感染研と RIEM との研

究等連携協力について意見交換を行う。

2013年10月にベトナム・ハノイ市を訪問し、国立衛生疫学研究所(National Institute of Hygiene and Epidemiology(NIHE)で開催される「第2回 NIHE-NIID 共同研究報告会」に参加し、ベトナムにおける新興再興感染症等の発生及び研究等の状況について情報収集する。本機会を利用し、感染研及び NIHE との連携協力に関し共同研究事業等の活動などの協議を行う。また、WHOベトナム事務所、NIHEで活動する JICA 技術協力プロジェクト及び長崎大学共同研究事業などについて情報収集を行うとともに関係者と意見交換を行う。

2013年11月に中国・北京市で開催された「第7回日中韓感染症シンポジウム」及び「第2回日中共同研究報告会」に参加し、中国及び韓国における新興再興感染症等の発生及び研究等の状況について情報収集する。本機会を利用し、感染研及び中国CDC、韓国CDCとの連携協力に関し共同研究事業等の活動などの協議を行うとともに連携協力について意見交換を行う。

2013年7月に開催される第34回衛生微生物技術協議会研究会に参加する。また、2014年2

月に大阪府立大学大学院生命環境科学研究科感染症制御学講座を訪問し、インド等アジア地域での感染症研究等における連携・協力について情報収集と行うとともに、意見交換を行う。

2. 国際的な連携

2013年9月に感染研において台湾CDCを招き開催する「第10回日台感染症シンポジウム」において、同シンポジウムの開催を企画調整し、両機関の専門家間での交流を進め感染症調査研究分野での連携協力を進める。また、同シンポジウムの機会を利用し、感染研と台湾CDCとの研究分野における連携協力及び共同研究等について情報収集するとともに関係者との意見交換を行った。

C. 研究結果

1. アジア各国との連携協力

ロシア医科学アカデミー疫学・微生物学研究所(RIEM)及びロシア太平洋医科大学の訪問では、両研究機関の専門家に加え、ロシア医科学アカデミー、ロシア保健省インフルエンザ研究センター、ロシア連邦極東地域ウイルス検査所からの専門家に会い、ウラジオストク等ロシア極東地域でのダニ媒介性脳炎ウイルスやハンタウイルス、エルシア等の感染症発生状況について、RIEM等が行う分子疫学調査及び環境調査などの状況について情報収集出来た。また、ロシア太平洋医科大学ではロシア政府が進める感染症ラボの整備状況を視察し、インフルエンザ研究分野においてWHO指定センターの指定を目指す等情報収集を行った。

2013年11月に開催された第7回日中韓感染症シンポジウムでは、SFTSなどのベクター媒介感染症、新型インフルエンザ(H7N9)、多剤耐性結核及び風疹等について参加する機関の専門家から情報収集を行うとともに、中国CDC及び韓国CDCとの間での研究協力及び連携など双方が行う事業等について情報収集を行うことが出来た。

2013年10月に開催されたベトナムNIHEとの共同研究発表会では、手足口病、狂犬病、薬剤耐性などでベトナムにおける感染症発生状況及び研究等の状況について情報を得た。また、JICA等が行う技術協力などにより実験室整備や人材育成など感染症予防対策等への貢献と感染研とNIHEとの研究分野での連携協力の相乗的な効果を確認するとともに、WHOベトナム事務所からこれらの貢献と実績について高く評価することを確認した。

2013年9月に開催された第10回日台感染症シンポジウムでは台湾における新型インフルエンザ等感染症の発生状況、調査研究の状況について情報を得たほか、共同研究など感染研と台湾CDCの連携協力の実績を確認出来た。加えて日台シンポジウムは、2003年から日本と台湾相互に開催され感染研や台湾CDCなど両国の感染症研究等を行う専門家の交流を進め多くの実績を残しており、台湾との窓口機関である交流協会及び駐日台北経済文化代表処から参加する幹部からも両国での感染症予防対策への貢献への高い評価と今後の連携協力の推進への期待が示された。

衛生微生物技術協議会研究会では、国立感染症研究所と地方衛生研究所の既存のネットワークが、国立感染症研究所と各国研究機関との連携協力の推進に役だっていることが確認出来たほか、海外での新興再興感染症に関する情報等が地方衛生研究所での活動にも活用出来ることが認められた。

2. 国際的な評価

共同研究、人材育成及び情報共有等の活動を通じて、国立感染症研究所と各国研究機関との連携協力体制は進展しており、これらの活動及び成果はカウンターパートである各国研究機関のみならず、WHO、米国CDC等の感染症対策機関等から高く評価されており、引き続きアジア地域での感染症対策推進への貢献が期待さ

れていることが確認出来た。

D、E．考察と結論

国立感染症研究所が、国内での感染症対策のため取り組んでいる研究等の成果を海外の研究機関等と共有し、また海外での研究機関との連携や協力を実践することは、感染症対策における国際貢献が図れるのみならず、迅速な事態把握や早期対応などにより我が国への侵入防止や国内での対策構築など早急な対応が図られることとなる。

新たな感染症の発生・流行などに際しては、サーベイランス及びラボ機能のほか情報解析と関係機関間でのコミュニケーションなどが重要であり、各国感染症研究機関との持続的な関係を構築するためには、専門家間での交流などに加え、国立感染症研究所と各国研究機関が公的な関係を構築し定期的な活動を行うことが大切である。

今回の研究では、中国CDC、韓国CDC及び台湾CDCとの長年にわたる連携協力の実績と緊密な関係を再確認出来たことに加え、ベトナムNIHEにおいては、我が国が行う技術協力による成果と感染研との共同研究など連携協力との相乗的な効果を確認することが出来た。

また、ロシア医科学アカデミーREIMとのワークショップ開催により、これまで十分な情報が得られていなかったロシア極東地域での感染症等の状況について情報を得るとともに専門家との関係の構築を行うことが出来た。これにより我が国周辺地域での感染症情報収集等が改善されることが期待される。

F．健康危険情報

特記事項なし

G．研究発表

特記事項なし

H．知的財産権の出願・登録状況

(予定を含む。)

特許取得

特記事項なし

実用新案登録

特記事項なし

その他

特記事項なし